

ストレスと漢方薬

チックのこと

小児

チックという病気があります。
神経過敏なお子さん(幼児、学童)に見られます。
本人さんが無意識に、短時間で不随意運動を起こします。
動作としては、肩を動かす、首を振る、鼻をククン鳴らす、口をとがらす、咳払いをするなど上半身を使います。
時々「アッ」とか大声をあげる出すパターンもあります。
これは音声チックですね。
動作だけ、音声だけ、両方とも、3つの種類があります。
心身症または神経症の1つであると考えられていますが、心因の背景を探ることも同時に行います。
家庭環境、保育園・学校環境などです。
本人さんがストレスを感じている場合は、抑肝散(よくかんさん)が良いですが、緊張、過敏傾向があれば柴胡桂枝湯(さいこけいしとう)が合うかも知れません。
これらを数週間単位で試しながら、周囲の環境を整えながら進みます。
通常、数ヶ月から1年ほどかかって症状が軽快していきます。
周囲から本人さんへの、「またやってるよ」とか、指摘をしない方が良いです。
それをやり続けている間は、なかなか治りません。



お知らせ

岐阜市の漢方外来 6月11日(土)、25日(土)
14:00 - 17:30 中島小児科 (岐阜市鍵屋東町2の1)

小児夜間急病センター当番日
6月3日(金) 9:30 - 22:30 (受付) 岐阜市民病院

なかしまこどもクリニックの情報をLINEでお知らせしています。
ホームページ、QRコードから登録をお願いします。



ストレス性の高血圧、不安発作

大人

ストレスがかかると血圧が上がる、精神不安が起こる、不眠がある。
こういうときは、柴胡加竜骨牡蛎湯(さいこかりゅうこつぼれいとう)です。
怒りがこちらに向かってくる人が多いです。
こういう方のパニック発作に柴胡加竜骨牡蛎湯を使っている先生もおられます。
交感神経の過緊張状態といましようか、そういう状況にある方が適応です。
腹診で、おなかが張っていて、両肋骨下端を抑えるとウツと痛がります(胸脇苦満)。
腹部に動悸を触れることもしばしば見られます。
まずは1週間試してみます。
レスポonderかどうか分かります。
怒っている人が多いので丁寧に対応します。
うまく漢方薬が合っていたら、ニコニコされます。



ストレス性の痛み

大人

外傷性の痛みは、時間経過と共に軽快するのがほとんどです。
時に、なかなか治らないと訴える方が相談に来られます。
見るからにイライラした表情です。
話が始まったら、しゃべる、しゃべる。
話が止まりません、ずっとしゃべっている(驚)。
「私は悪くないのに」という言葉が、話の途中によく出てきます。
他罰的発言の連続です。相当イライラしています。
お話を伺った後、診察です。
舌が逆三角形、下腹部に圧痛点あり。
中高年女性のストレス性の痛みには、加味逍遙散(かみしょうようさん)です。
これを1回1包、1日2回、あるいは3回で1-2週間飲んでもらいます。
再診時、表情が穏やかです(多少ですが)。
それでも相変わらずしゃべり続けます。
どうもこの漢方薬は自分に合っているようだ。
良かったですねー、とお伝えして、本人さんがもういらないとされるまで飲んでもらいます。
痛み、という訴えに引っ張られて、鎮痛剤などで改善しない痛みには
ストレスがらみを考慮します。

